

保育あきた瓦版

第57号 令和2年7月

秋田県保育協議会 広報委員会



四季折々

秋田県保育協議会会長 川嶋 眞諒

園庭や境内でもサツキやツツジの花が紅く咲き始めました。花言葉は、「節制」、「節約」等、岩肌などの厳しい環境でも、低い姿勢で自生している姿が由来だそうです。涼風に吹かれながらも、強く鮮やかに花を咲かせる姿にいつも励まされております。

山門の袖脇に、大きなタブの木が何百年も雨風に吹かれながら、自然に合わせてこの枝ぶりになったと思うと感動を覚えます。タブの木をよく見ると苔むして、大きな幹には小さな虫が上り下りし、大きく広がった枝葉には鳥が休んでいます。以前にはリスが日参しておりましたが、今は環境の変化等で来なくなりました。様々な生き物たちに毎年毎年、繰り返し繰り返し、静かに沢山の恵みを楽しみを与えてくれたことに気づかされました。このタブの木は私が生まれるずっと昔からここに息づき、これからも私よりもずっと先まで生き続けることでしょう。

この時期になると毎年新しい環境での緊張や疲れが身体や心の疾患として現れはじめます。然し、今年は新生活どころか、今迄経験したことのない「新型コロナウイルス感染症」に困難な状況が続いております。感染防止策について国及び各種団体などからのメール等で頻繁に来ております。何れも密集・密接・密室を避けながら「感染症ガイドライン」に従うようにとのことです。インフルエンザと違い、長い潜伏期間があり、人によっては発熱だけではなく、味覚、嗅覚異常、頭痛、吐き気などと異なり、とても厄介なウィルスで、現状では感染防止の取り組みについては、マスク、手洗い、消毒、うがい、密にならないように徹底して行っている、無症状であっても周囲に拡散し、大気中でもなかなか失活しないとされており、

私共保育従事者は、各保育所において行政及び医療関係、専門家等の意見を聞いて早急にマニュアルを作成し、職員、保護者、地域一緒になって感染防止に取り組んでいかなければならないと思います。

今後、長い期間付き合わなければならない、「新型コロナウイルス感染症」に「アレが出来ない、コレが出来ない」と思い詰めてしまいがちですが、サツキやツツジの花のように誰かの励みになれるよう、そして励まし合える仲が持てるよう、今自分がやるべきことを実践して時間を無駄にしないよう一日一日を大切に“今”を乗り越えてゆきたいと思います。

6月に横手市で開催されるはずだった、第48回 秋田県保育研究大会が
新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。

今号では、第48回大会で発表する予定だった園のテーマと主な内容
をご紹介します。

第1分科会① ●子どもの育ちを保障する

新たな時代の保育実践 ～すべての子どもにむけて～

提 案 園 能代市第四保育所（能代市）

【 主な提案内容 】

本園の研究は「思いやりの心を育てる～友だちを大切に、認め合える子ども」をテーマに進めました。一人の子の育ちを見つめながら事例研究、カンファレンスなどを行い、友だちへの思いやりの心を育てられるよう取り組みました。子どもたちが相手の立場に立ち、考えられるようになるには、何よりも自らが他者に受け入れられ自己発揮する必要があることに気づき、保育者の関わり方の大事さを再確認しました。今後も保育者は子どもたちにとってよき理解者であり、「心のよりどころ」となれるように研鑽を積んでいきたいと思っています。

提 案 園 こども園こうほく風の遊育舎（秋田市）

【 主な提案内容 】

異年齢をより意識した室内環境を保障することで、年上の子どもたちへの憧れを持ったりお互いに育ち合ったりしながら過ごすことができるのではないかと考えました。園内研修を行い、子どもの様子や保育環境について話し合い、見直しを行いました。また、環境や活動によってより多くの気づきやつぶやきが得られ、年齢の枠を超えて子ども主体の遊びが発展していくことができるよう、5歳児が中心となる活動に焦点を当て、3～4歳児の心の動きや気づきから異年齢の関わりを深めていく様子を検証しました。



提案園

アソカ保育園（横手市）

【 主な提案内容 】

本園の特色である自然に囲まれた園庭を、「こんなことをしてみたい!」「こうしたらどうなるの」という園児の思いを尊重しながら、保育者と共に環境を整え、子ども達自身の遊びの場として活用して行きたいと考えました。

1. 園全体で遊びを行う場として園庭に「アソカらんど」を築いて行く姿や、保護者との協力でイス・遊具の塗装など環境を整えて行く姿などを発表に取り入れたいと思います。
2. 同年齢や異年齢同士、また父兄や地域の人とのふれあいを重視した保育を継続することによって一人一人の自己有用感が高まり、遊びへの意欲付けとなり、自ら遊びを創り出していく子どもたちになるのではないかという仮説のもと研究を進めています。

第1分科会② ●子どもの育ちを保障する**新たな時代の保育実践 ～すべての子どもにむけて～****提案園**

八郎潟たいようこども園（八郎潟町）

【 主な提案内容 】

保育者の子どもに寄り添った関わりと、子どもの発達や興味・関心に即した環境構成により、子ども一人一人が自分なりに表現することの楽しさや喜びを感じ、周囲の環境や人と関わり合っていくことが園の保育目標「共に生きる力を培う」につながると考えました。

今回の研究では、子どもの表現の手立てのひとつ「かくこと、つくること」に焦点をあて、事例カンファレンスを通して子どもの育ちのプロセスを学び合い、個々の内面理解に努め、保育の環境と保育者の関わりを探る事にしました。

提案園

みわこども園（羽後町）

【 主な提案内容 】

様々な人と関わり、自分との違いを知り、受け入れ、良さに目を向けることができるようコミュニケーション力に着目し、3～5歳児を縦割りにした「なかよし交流」を行いました。

他クラスの子には関心が見られず、名前も知らないという子どももいたが、交流を重ねていくことで、誰かが困っている時に手を差し伸べたり声をかけたりして、誰かを気遣う行動が自然に出せるようになってきました。自分の行動に自信が持てるようになり、少しずつではあるが個々の成長が見られるようになりました。

提 案 園

明照保育園（横手市）

【 主な提案内容 】

日常の遊びについて、じっくり遊び込む子どもたちの姿を見ることができていないのではないかという振り返りから、遊び込む日常を意識した保育が始まりました。子どもたちの遊びから生まれる心が動く体験を“きらり”と位置付け、さらに輝かせる関わりを研究することで、成長を促す豊かな遊びがあふれる保育が実現できると考えました。

園全体で研究テーマを共有し、各年齢で子どもたちの“きらり”の発見や援助をする事例を発表し合う園内研修や保護者との共有を通じ、環境設定と保育士の関わりについて実践と研究を深めていきます。

第2分科会 ●子どもの育ちを保障する**配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて****提 案 園**

こぐま保育園（秋田市）

【 主な提案内容 】

当園の研究への取り組みは、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れをきっかけとした、園としての特別支援教育の基盤作りが中心です。取り組みの視点を多角的かつ相互的に据え、“園全体で”という意識のもと、特別な配慮を必要とする子どもへの理解を深め、充実した支援のために必要な体制を整えながら、実践を重ねてきました。特に、互いに認め合い、相手を受け入れ、思いやることができるような、子ども同士の関わりや育ち合いに焦点を当て、困り感から課題を見出し、個に応じた配慮の保障が集団としての育ちにつながることを目指しています。

第3分科会① ●子どもの育ちを保障する**保育者の資質向上を図る****提 案 園**

あおぞらこども園（鹿角市）

【 主な提案内容 】

平成28年のこども園開園時から4年間、KJ法を活用した園内研修に取り組み、「一人一人が生き生きと夢中になって遊べる子ども」の姿を目指してきた。KJ法を活用したワークショップの様々な手法の試行錯誤をし、子どもの変容や保育者の変化について年を追ってまとめました。この研修を通し、園として目指す姿や援助及び配慮の方向性を共有し、チームで子どもを支えていく事のメリットを実感することができたため、今年度も引き続きKJ法に取り組んでいます。

提 案 園

八森子ども園（八峰町）

【 主な提案内容 】

本園では、園と保護者と地域のつながりを意識した環境を「小さな社会」と捉え、「心豊かな子どもを育む」ことを目指し平成29年度より3か年計画で取り組みました。全園児の成長を全職員で見取る保育を重点に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点としたカンファレンスと子どもたちへの多様なアプローチにより、「10の姿」の理解と保育者の資質向上を図り、園目標である心豊かにたくましい子どもを育む教育・保育の実践を、今年度はフォローアップ編として研究を継続しています。

提 案 園

中央保育園（由利本荘市）

【 主な提案内容 】

“子どもが自発的・意欲的に関わられるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること”が保育所保育指針の中に示されています。子どもの遊ぶ姿やつぶやきに耳を傾け、“今”何に夢中になっているかを見つめ、環境構成を再構成する中で保育者が子どもの姿を捉えることが大切であると考えました。保育者の資質向上に努め、専門性を高めることを目的とし保育実践やカンファレンス、ドキュメンテーションなどの活用をすることで保育の見直しを図り研究を進めました。

第3分科会② ●子どもの育ちを保障する**保育者の資質向上を図る****提 案 園**

わかこま第一保育園（秋田市）

【 主な提案内容 】

子どもの主体性を育むため、保育者の資質向上を目指し、方法を変えながら2年間の研究に取り組んできました。エピソード記録やカンファレンスで保育の見直しを行う中で、保育者の意識や子どもを見る目に変化が現れてきており、研究の成果が感じられます。発表では、2年間工夫しながら進めてきた具体的な取り組みと、保育者の変化に視点をあて発表する予定です。発表は1年延びましたが、現在も研究は続けており、より良い保育の充実のため学び続けていきたいと思ひます。



提 案 園

仙南すこやか園（美郷町）

【 主な提案内容 】

本園は幼保連携型認定こども園で、保育に携わる職員が保育教諭と保育補助を合わせて48名おり、勤務がシフト制のため、全員参加の園内研修ができないことや、同じ方向性をもって保育することが難しいなど様々な課題を抱えています。そこで、全職員が研修に参加できるように研修体制と研修方法を見直し、保育の振り返りから子どもの姿を多面的に読み取ることを通して、子どもへの関わり方を共通理解できるようにしました。このような研修の積み重ねが、保育者一人一人が内面を読み取ろうとする意識の向上と、保育の充実につながっていくのではないかと考え研究を進めました。

提 案 園

大館乳児保育園（大館市）

【 主な提案内容 】

子どもの主体性を育むには、豊かな体験を通して子どもの遊びを支える保育者の関わり等が重要と考えます。一人一人の保育者が子どもの心の読み取りを深めるには、エピソード記録を通して他の保育者はどのように読み取るのか、どのようなアプローチをするのか等他の保育者と語り合い共有し合うための工夫が必要だと考えました。そこでエピソード記録の様式を改善しながら、他の保育者と子どもの内面理解を深め合うことで保育の見直しを図り、一人一人の子どもの主体性を育む保育を目指し、本研究を進めています。

第4分科会 ●子育てライフを支援する**地域の子育て家庭への支援の充実にむけて**

発表園なし



第5分科会 ●多様な連携と協働をつくる

子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク

提案園 前田保育園（北秋田市）

【 主な提案内容 】

子どもを取り巻く社会や家庭環境の変化に伴い、子どもの姿にも「生きる力」や「人と関わる力」の低下など、心身の成長に違和感や危機感があります。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に、各年齢の健全な育ちを十分保障するために専門機関と連携をとり、よりよい保育の実現をめざしました。

関係機関との協議を重ね、子どもの育ちの背景や要因を探りながら、子どもの現状や特性の理解など、職員間の共通理解を深め、保護者支援や子どもの健やかな成長につなげようとする研究です。

第6分科会 ●子育て文化を育む

「食を営む力」の基礎を培う食育の推進

提案園 星城保育園（にかほ市）

【 主な提案内容 】

平成30年に施行された保育所保育指針では、新たに「食育の推進」が、保育の内容の一環として位置付けられ、全職員が協力し、各施設の創意工夫のもとに食育を推進していくことが求められています。

自園では、畑づくりや園児のクッキング体験などの食育活動を実施してきましたが、保育士と給食担当者との間で「活動のねらい」の認識にずれがあり、スムーズに進まないことがありました。

それぞれの専門性を生かしながら協働して食育を進めるために、事例やアンケートなどを通してまとめた研究です。



第7分科会 ●子育て文化を育む

保育の社会化にむけて ～保育の営みをいかに社会に発信するか～

提案園 大曲東保育園（大仙市）

【 主な提案内容 】

本園は保育の重点目標として、大曲を愛する子どもを育てる「ふるさと教育」に力を入れて取り組んでいます。高校生との交流や町探検を通じた地域の人とのふれあいは、人のあたたかさを感じる経験となり、子どもたちの様々な発見は大曲の街への興味や関心を深めることにつながると考えます。また、米作りに取り組み生長観察を続け収穫した米を使い食育活動を展開するなど、五感で感じる体験が子どもを豊かにし、大曲のよさを感じることに繋がると考え子どもの主体性を大切にしながら取り組みました。

第8分科会 ●子育て・子育てを支援する仕組みをつくる

公立保育所・公立認定こども園等の使命と 地域社会での役割

発表園なし

編集後記

本号発行にあたり、寄稿いただきました皆様、本当にありがとうございました。

コロナウィルス、大雨災害、地震…。自然の猛威に日常が奪われ不安が拭えない毎日です。そのような毎日の中で、「ありがとう」や「大丈夫？」の一言、周囲から受ける小さな親切がとても身に染みてありがたく感じられるようになったと思います。平凡なことを平凡な気持ちで行えることこそ非凡(特別なこと)であるのだと感じます。

研究大会は中止になりましたが日々の保育に延期も中止もなく、子どもたちにとっては貴重な一年、貴重な一日であることは変わりません。一日も早く平凡な日常に戻ることを祈って、こういう時こそ！と踏ん張ろうと思います。

(広報委員長 三浦 裕美子)



広報委員名

担当副会長	須藤 まゆみ (川添保育所)
広報委員長	三浦 裕美子 (ウェルビューいずみこども園)
広報副委員長	伊藤 麻由子 (鵜川保育園)
	児玉 一枝 (雄和中央保育所)
委員	豊田 佳子 (あおぞらこども園)
	伊藤 幸美 (矢立保育所)
	石黒 幸子 (昭和こども園)
	柴田 香織 (あきた中央こども園)
	齋藤 美和子 (星城こども園)
	鈴木 美奈子 (ひのきないこども園)
	小野崎 一美 (せんだうこども園)